

私の南相木愛



木村 哲郎

南相木村の診療所のすぐそばに、茅葺きの美しい建物があります。

この建物は、江戸時代天保3年、1831年に芝居小屋として建てられ、明治時代には学校、大正時代から村役場として使われたそうです。平成5年、1993年に村役場新庁舎が完成したあと、歌舞伎の廻り舞台を復元して、平成8年に民俗資料館として公開されました。



診療所の近くにある南相木村民俗資料館
(南相木村教育委員会提供)

私は、診療所初出勤の日に初めてこの建物を見つけて、南相木村が大好きになりました。このような古い建物をきれいに保存して、つい最近まで役場として活用していたということに感激しました。

江戸時代の農村歌舞伎は、農民が豊かに力をつけた村で盛んになった、と高校の歴史の先生に教わりました。いちばん有名なのは伊那の大鹿村でしょうか。民俗資料館の開館記念には大鹿村の歌舞伎を招待して公演が行われたそうです。

この資料館の沿革は、診療所の書棚にあった、南相木村誌という書物で知りました。南相木村誌は、歴史篇、古代、中世近世、近代現代の3巻、南相木の自然1巻、それに南相木の民俗習俗1巻からなります。小さな村なのに、こんな立派な書物を編纂できたのは驚きです。

村には立派な村立図書館もあります。健康診断が行われる公民館と併設されていて、健診の仕事をした時に、その素晴らしさを知りました。残念ながら私が診療所に来る月曜日は休館日です。専任の司書さんもおられます。私が興味がある、秩父事件についての本が10冊以上収集されていました。秩父事件は南佐久では、北相木村の菊池寛平が中心になり、南相木からも多数が参加しました。この時の経過については南相木村誌にも記述がありました。



民俗資料館の中に復元された廻り舞台
(南相木村教育委員会提供)

診療所の医師として、南相木村について最も感心するのは、80代、90代のお年寄りで、お元気な方が多いことです。毎日歩いて、畑の仕事もするような生活のおかげでしょうか。



お気に入りの南相木村オリジナルフリースを着て
(タイトル横の写真で着ているのは、村のオリジナルポロシャツ。ともに村のPRキャラクター「カフェバスのちょっくらさん」が施されている。)

冬は寒くなりますが、村には、屋内のゲートボール場が7か所もあるそうです。村は村民の健康維持向上に力をいれており、各種の健診受診には補助があり、インフルエンザ予防接種は65歳以上は全額補助されています。村の保健師の働きもアクティブで、高齢の村民の状態は、みんな知っているようにお見受けしました。このような、村の診療所で働かせていただけることを、幸せに思います。

ありがとうございます。